

平成 24 年 1 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社デ・ウェスタン・セラピューティクス研究所
代表者名 代表取締役社長 日高 有一
(コード番号：4576)
問合せ先 経営企画室長 今井 清子
T E L 052-218-8785

抗血小板剤「K-134」の国内後期第Ⅱ相臨床試験開始、
マイルストーン受領のお知らせ

当社が創製した抗血小板剤「K-134」につき、ライセンスアウト先の興和株式会社より、本日、国内後期第Ⅱ相臨床試験開始確認の連絡を受けたことをご知らせいたします。

平成 23 年 12 月 2 日に公表いたしました、「抗血小板剤「K-134」の国内後期第Ⅱ相臨床試験登録のお知らせ」のとおり、公表された「臨床試験情報」に則って国内後期第Ⅱ相臨床試験が行われます。

本試験の開始を受け、当社は興和株式会社から契約に基づくマイルストーンを受領いたします。平成 24 年 12 月期第 1 四半期にマイルストーン収入による売上高を 37 百万円計上し、平成 24 年 12 月期第 3 四半期に生ずるマイルストーン収入 75 百万円を合わせ、平成 24 年 12 月期において合計 112 百万円の売上高を計上する予定です。

以上

K-134 について

K-134 は PDE (ホスホジエステラーゼ) ^(注1) 3 を選択的に阻害する当社が創製した化合物です。また、ドラッグ・ウェスタン法 ^(注2) により血小板のコラーゲン ^(注3) 受容体の 1 つである CD36 ^(注4) 及び血小板や血管壁に存在する細胞骨格タンパク質 ^(注5) の 1 つであるコフィリン ^(注6) と結合することが証明されております。

K-134 は血小板凝集阻害作用を有するとともに、非臨床試験において血管内膜肥厚抑制作用 ^(注7) を有することが確認されております。

用語解説

(注1) PDE(ホスホジエステラーゼ)

cAMP(サイクリックエームピー)といい、細胞内で酵素反応を進めるための情報伝達を担う因子。細胞の成長、増殖、分化に密接に関連している。)を分解する酵素で細胞内情報伝達に重要な役割を担っており、1～11まで存在します。

(注2) ドラッグ・ウエスタン法(日本、欧州等4カ国で特許登録)

薬物の標的タンパク質の同定に使うバイオテクノロジーを応用した手法で、当社が発明し特許を保有しております。複雑なタンパク質精製プロセスを介せず、薬物が結合する少量のタンパク質を検出し、その遺伝子を同定することにより標的タンパク質を見出すことができる方法です。

(注3) コラーゲン(collagen)

真皮、靭帯、腱、骨、軟骨等を構成するタンパク質の1つで、体内の全タンパク質の約1/3を占めております。血小板の凝集惹起物質の1つであり、コラーゲン(collagen)を阻害することで血小板凝集作用が抑制されます。

(注4) CD36

血小板膜に存在するコラーゲン受容体の1つでコラーゲンと結合することによって血小板凝集機能の引き金となるタンパク質の1つです。

(注5) 細胞骨格タンパク質

細胞には、細胞の形態を維持するための繊維状構造である細胞骨格がありますが、その中に存在するタンパク質を細胞骨格タンパク質と言います。

(注6) コフィリン

血管に存在する細胞骨格タンパク質であり、このタンパク質に何らかの影響が生じると血小板構造が変化し、それによって血小板の凝集機能が活性化すると考えられております。

(注7) 血管内膜肥厚抑制作用

血管内膜肥厚とは、血管壁の損傷により血管壁が厚くなることであり、その結果血液が通る道が細くなり血液がつまりやすくなります。この血管内膜肥厚を抑制することは動脈硬化を防ぐためには重要であると考えられており、その抑制作用を血管内膜肥厚抑制作用と言います。